

福音の種

福音の種はみんなにまかれています。自分とまわり
の人が持っているよい面を次の空白に書いて下さい。

自分のよい面

人のよい面

このころよく使われる「福音宣教」という言葉は、

以前それほど耳にする事がありませんでした。むしろ、昔からよく使われていたのは「布教」という言葉でした。では、どうしてこのように変わってきたのでしょうか。「布教」という言葉を使うと、何か自分たちが

持っているものを持っていて、それを人々に与えようという姿勢が感じられます。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」(マタイ 28・19)という呼びかけに答えて、弟子たちは全世界に出かけて行きました。

でも、今日のたとえにもありますように、福音の種

は、すべての人にまかれています。私たちが福音を持つていて、それを他の人に分け与えることではないのです。

「福音宣教」という言葉も、充分にこの事を示しているとはいえません。まだまだ、福音を教え、のべようという姿勢があります。大事なのは、それぞれの人の持つている福音の種が実を結ぶ事です。別にわざわざ自分の持つている福音を押しつける必要はありません。

ただ人の弱さによって、福音の種を自分一人ではじゆうぶんに実を結べないのです。あるいは、自分が



持つている事に気づかないのです。私たちができる事は、お互いの持つている福音の種を芽生えさせるように協力しあう事です。

「私たちは、社会の中、人々の中に
ある福音的なものを、キリストのメッセ
ージ、みことばの種として受け入れ、そ
れに協力することが必要であると言
えるでしょう」。